

# 名実共に新しい町、住民と一体となったまちづくりを目指して。



福智町長  
浦田弘二

## 財政再建

まず取り組むべき施策、それは財政状況の改善です。平成16年度末で、すでに231億円に上っている借金をどう削減していくかが課題です。簡単に言えば、支出を引き締めて収入を増やすということです。そのためには行財政の効率化、ムダなものを排除し、計画行政を推進していきたいと思っています。

## 雇用促進

主要施策として雇用対策を図り、自動車関連企業の誘致を試みます。幸い、大手自動車メーカーが比較的近い場所に立地されていますので、福智町の土地の安さをはじめ、貫通が見込まれる201号線バイパスと田川直方バイパスを活用した他にひけをとらないアクセ

スをPRしながら、早急に取り組みたいと考えています。立地に関しては、仮に賃貸にしろ無償提供にしろ土地代が格安で済みます。これも町内の状況を把握しながら若年層の効果的な雇用対策として、わたくし自ら積極的に足を運んで、企業誘致に向けた活動を行いたいと思っています。

また、年金額だけでは生活の厳しい受給者など、中高年を対象にした産業活性化センター（仮称）を設立したいと考えています。今のところ農業中心の分野で、収穫した農作物から収入を得られればと思っています。

例えば、小中学校や保育所、福祉センターなどの食材提供につながる、食の地産地消も可能です。地域でできた食材を地域の子どもたちが口にすることに、郷土に対する愛着心や思いやりの心を育むことができるのではないのでしょうか。いずれにしても田や畑を提供していただけるような農家の方々のご協力も必要です。衛生面、安全面の確保など条件整備しながら進めていきたいと考えています。

## 住民参画

埼玉県の志木市を例に、行政機構と同じような住民による委員会を設け、真のまちづくりに向けて、住民からの底上げ

を図りたいと思います。ゆくゆくは企画分野など、できるだけ行政機構のある部分を住民のかたによる組織や機構で肩代わりしていただいて、その分の人件費など財政負担を軽減できれば理想的だと考えています。そうすることで直接住民のニーズを把握することにもつながります。委員は公募するなどして、高齢者から高校生までの幅広い年代を対象に、町政に関心を持っている意識の高い人で構成できればと思います。その際には、女性のかたにも積極的に参画していただきたいです。

## 直接対話

※詳細は32ページ

あらゆる施策を立案していく上で住民の意識や地域性を踏まえないければ、行政の一方通行になってしまい、事業やサービスが上滑りに終わってしまいます。そのため、早い時期に地域懇談会（タウンミーティング）を開いて住民の意識や地域の実態を把握し、効果的な施策を打ち出していきたいと考えています。



全町職員を対象に職場懇談会（オフィスミーティング）を13日かけて実施。町長が町政の方針を説明し、職員との意思疎通を図った。

## 教育推進

人づくり、特に教育を行政推進の最重要施策に位置づけたいと考えています。田川地域を変えるためには教育や文化面の充実が不可欠です。福智町から田川のイメージを変えていきたいと思っています。環境面では平成15年8月から準備を進めている市場小の建設問題もあり、建て替えを急がないと危険な状況にあります。さらに充実させた教育特区の立案などもあります。教育の環境と内容、双方の充実に力点を置いて、町全体で子どもたちを育む「共育」のまちづくりを進めます。教育水準の向上が将来、あらゆる分野で町の活性化につながると考えています。

## 町生新真

福智町という新しい町ができました。これまでの箱物建設重視、借金体質の解消など、住民のみなさんが持つ「従来と

は違う町にしたい」という期待を裏切らないようにしたいです。旧3町の住民融和を図りながら財政再建や職員の資質向上を進め、住民の意見や思い、考えをすぐに町政へ提案でき、反映に向けて進めていくことができる町にしたいと考えています。商店街の活性化、地域再生、観光、農業、福祉、子育て支援など多方面で課題が山積しており、町や地域の状況を把握しながら拙速にならないよう行財政を進めていきます。財政状況はピンチですが、これが町を変え最後のチャンスだととらえ、名実共に新しい町、住民と一体となったまちづくりを行います。住民参画型によるこれらの施策が、意識を変え、町を変え、と信じ、みなさんと共に自立できる自治体「福智町」を目指して、全身全霊を傾注し取り組んでまいります。



浦田町長の初登壇。文楽で花束を受け取り新しい町のために職員と二人三脚で頑張りたい」とあいさつ。林勝馬町長選管理委員長から当選証書を手にし、町長のイシに誓った。